

① 団体活動の育成助長

- ア 青少年団体への加入促進と自主活動を推進する
- イ 婦人団体の育成と地域活動の推進を図る
- ウ P T Aの本質的な活動の推進充実に努める
- エ 地公連、地区社教連の自主活動を推進する
- オ 財政基盤の充実と育成資料の提供に努める
- カ 団体の内部指導者、専門指導者の養成確保を図る

② 関係機関、団体との連携

- ア 団体の機能的分化と総合的な連携を図る
- イ 職場、地域との連携強化に努める
- ウ 学校教育との連携を図る
- エ 関連行政職員との連携を図る

(6) 図書館活動の推進

住民の個人学習を促進するなど教育機関として公共図書館は、住民の多様な学習要求の高まりにともなって、図書館職員の資質の向上、図書館資料及び施設・設備の充実強化が強く期待されている。図書館職員研修事業の開催による資質の向上を図るとともに、施設、設備の充実については困難な面が多いが、参考図書、児童図書部門の充実、予約制度の実施による移動図書館の効率的運用に努めた。

- ① 図書館資料の質的充実
- ② 調査相談機能の充実
- ③ 相互協力事業の推進
- ④ 図書館長会議の開催
- ⑤ 図書館職員研修会の開催
- ⑥ あづま号の効果的運用
- ⑦ 親子読書文庫の強化
- ⑧ 読書普及活動の推進

2 市町村社会教育主事等研修会

(1) 趣 旨

市町村社会教育主事等に対して専門的な知識・技能の研修を行い、社会教育主事等の資質の向上を図る。

(2) 期日、会場、参加者数

- ① 期 日 昭和52年11月30日～12月3日
- ② 会 場 県婦人会館（福島市）
- ③ 参加者 53名

(3) 講 師

立教大学教授	岡 本 包 治
宮城教育大学助教授	雪 江 美 久
東北福祉大学教授	古 籬 安 好
福島大学教育学部教授	堀 口 知 明
”	工 藤 正 悟
”	徳 田 安 俊
福島女子短期大学教授	田 中 平 作
福島県文化センター総務部長	丹 野 清 栄
福島県教育庁社会教育課長	佐 藤 利 三 郎

(4) 参 加 者

市町村社会教育主事 公民館主事（4年勤務以上）

(5) 内 容

- ① 生がい教育学習事業の編成のあり方
- ② 生がい教育学習事業における学習内容について
- ③ コミュニティ形成と生がい教育学習事業について

3 社会教育委員研究協議会

(1) 趣 旨

社会教育をすすめるうえで、市町村社会教育委員の役割はきわめて重要であることにかんがみ、社会教育委員の任務及び活動上の諸問題について研究協議を行い、もって本県社会教育の振興に資する。

(2) 主 催

福島県教育委員会 いわき市教育委員会 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

(3) 期日、会場、参加者数

- ① 期 日 昭和52年7月25日～26日
- ② 会 場 いわき市文化センター
- ③ 参加者 163名

(4) 参 加 対 象

- 市町村社会教育委員
- 市町村教育委員会職員

(5) 講 師

青山学院大学助教授 稲 生 勁 吾

(6) 助 言 者

県教育庁社会教育課員
県教育庁いわき教育事務所社会教育主事

(7) 研究内容及び方法

- ① 講 演
地域における生がい教育の課題と社会教育委員の役割
青山学院大学助教授 稲 生 勁 吾
- ② 講 義
本県社会教育の現状と課題
県教育庁社会教育課長 佐 藤 利 三 郎
- ③ 分科会による研究協議
第一分科会研究協議題
在学青少年の社会教育活動推進方策について
第二分科会研究協議題
婦人の社会教育活動推進方策について
第三分科会研究協議題
成人一般の社会教育活動推進方策について
第四分科会研究協議題
高齢者の社会教育活動推進方策について

4 生がい教育研究協議会・研究大会

(1) 趣 旨

社会の激しい変化の中で、生がいの各時期に応じて新しい生活課題や学習要求をもち、たえず自己啓発を続け、人間として主体的に豊かな生活を営み、お互いの連帯感を高めることを求めながら地域社会の向上に努めているとき、社会教育に関係するかたがたの参加を得て社会教育活動推進上の諸問題について研究協議を行い、これが振興に資する。